

# 2015年上期の回顧と2015年下期の展望

**必ず復活！ブラジル経済**

**～日系企業はどう立ち向かうか～**

**運輸サービス部会 細谷 浩司**

**2015年8月20日**

# 運輸サービス部会の対象業界

- 物流
- 構内物流・機工・整備
- 海運
- 航空貨物
- 航空旅客
- 旅行、ホテル
- 通信、IT



# 物流業界

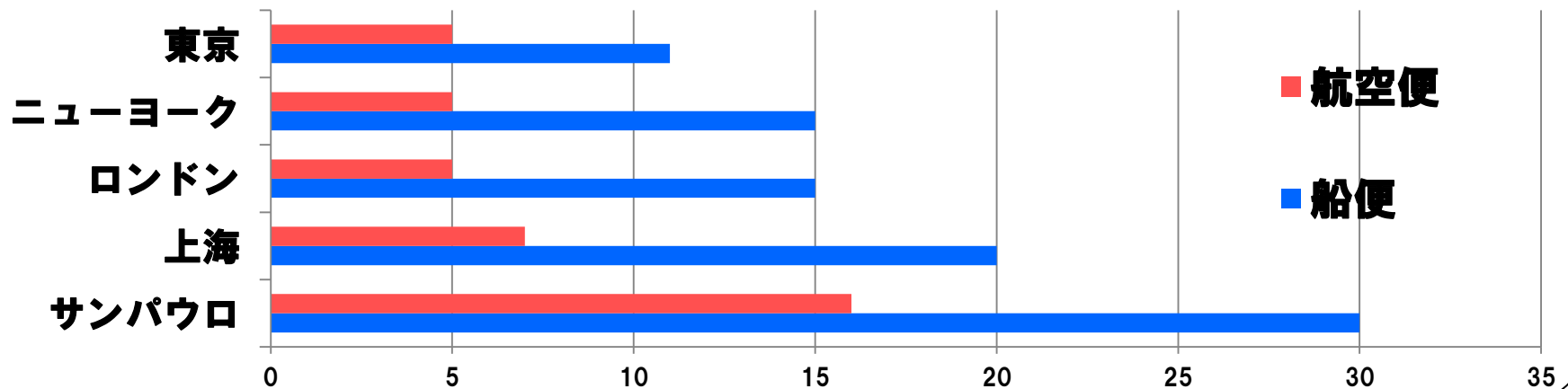
## 2015年上期回顧

- ・ ワールドカップの開催で生産部材等の輸出入が止まった昨年と比べても輸出入ともに扱い貨物量は少なく、全体的に厳しい上期であった。
- ・ 10年間凍結していたサントス港湾諸料金が5月に31.7%値上。

## 2015年下期展望

- ・ 待遇改善等の理由による港湾・税関ストライキ発生が懸念材料。
- ・ インフレ・各種料金値上げにより国内物流費用が上昇する傾向。
- ・ 引越の荷動きを見る限り、日本人駐在員数は同程度か微減と予測。

## 引越荷物：到着から輸入手続き完了までの主要都市別日数比較



# 鉄鋼業界内：機工・整備・構内物流

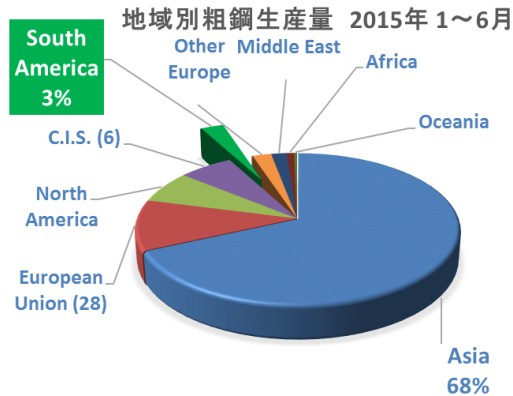
## 2015年上期回顧

- 鉄鋼業界は需要の減少に伴い、一部製鉄所での高炉の休止などの施策を行うと共に、外注業務の内製化による余剰人員の吸収等の検討を実施、また外注契約に関しても大幅な契約額低減の要求等ドラスチックなコスト削減方向に向かっており、経営に直接影響し契約解除、要員解雇等、厳しい状況。

## 2015年下期展望

- 引続き業界に対しては厳しいコストダウン要求が継続するものと予想。この中でどの様に生き延びていくか、合理化投資が何処まで出来るか、非常に厳しい状況が続くものと予想している。

鉄鋼業界内の協力業者として設備投資による要員合理化策を実施する為にも、客先の外注契約の長期化の交渉を強力に進める必要がある。



RANK IN 2014	COMPANY	Ton	%
1	ArcelorMittal	98,088	6.0%
2	Nippon Steel and Sumitomo Metal Corporation	49,300	3.0%
3	Hebei Steel Group (中国)	47,094	2.9%
16	Gerdau S.A.	19,001	1.2%
57	USIMINAS	6,054	0.4%
62	CSN	5,407	0.3%



## 2015年上期回顧

- ・ コンテナ船はレアル安の影響により前年同期比にて輸入が1%減少、輸出が6%増加となった。輸入では太宗アジアトレードは横ばいだったものの、欧州、アメリカからが6%減少。輸出は、特に米国向けの輸出が8%増加した。輸入超過の構図は変わらず、輸出入全体では前年同期比2%増となった。
- ・ 不定期船は中国の鉄鉱石輸入量が前年比で0.9%減となり、鉄鉱石を運ぶケープサイズ船の傭船料市況は低迷。これによりケープサイズ船の解撤（スクラップ）が進み、上期の解撤量は同時期の新造船竣工量を上回り、船腹の減少が続いている。鉄鉱石主要サプライヤーも一時的な減産や増産計画の見直しに踏み切る動きも見られた。
- ・ インフラ面ではサントス港の新ターミナル（BTP/Embraport）の運営開始により需給は緩和、ターミナルオペレーターによる競争が進んでいる。
- ・ コンテナ船の海運市況は大型船投入による供給増にて、特にアジア-南米東岸トレードの運賃レベルは記録的な低迷が続いた。

## 2015年下期展望

- ・ コンテナ船はレアル安とブラジル経済不調の影響を受けて輸入の停滞傾向は昨年に引続き暫し続く見込み。レアル安は輸出には追い風だが、財政緊縮策の企業活動への影響により輸出量の伸びにも影響を与える可能性もある。
- ・ 不定期船はケープサイズ船の傭船料市況が若干回復基調にある。需要低迷により鉄鉱石価格の下落基調が続いているが、通常下期は鉄鉱石輸出の繁忙期を迎える為、中国による購買次第では市況回復が期待できる
- ・ インフラ面では港湾整備と港湾民営化に対する政府計画が新たに発表され、具体的な展開が期待される。
- ・ コンテナ船ではアジア-南米東岸トレードの船型大型化・サービス改編が更に進められているが、厳しい運賃環境は継続する見込み。

**ブラジル経済の停滞と船型大型化の影響で、運賃環境厳しく、2015年下期も業界全体としては厳しい状況が続く見込み。**

# 航空貨物業界

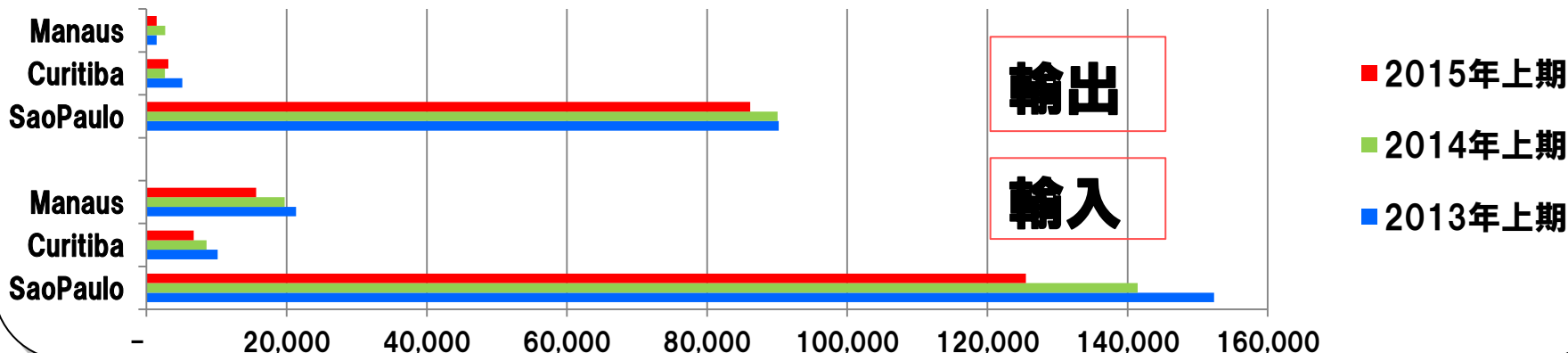
## 2015年上期回顧

- ・ 主要3都市での比較( サンパウロ、マナウス、クリチバ )  
輸入量は対前年同期比 ▲12.8%  
輸出量は対前年同期比 ▲ 4.9%

## 2015年下期展望

- ・ 輸入は減少、輸出は微増。
- ・ レアル安の中、新たな輸出品目が生まれることを期待。
- ・ オリンピック商戦に対応し航空需要が高まるか。

主要3都市 航空貨物輸出入取扱数量（単位：トン）



# 航空旅客

## 2015年上期回顧

- 国内線 有償旅客キロ対前年+3.9%、提供座席キロが同+3.0%、利用率+0.7pt向上。
- 国際線 ブラジル航空会社計で、有償旅客キロ対前年+13.1%、提供座席キロ同+13.6%、利用率は▲0.4pt低下したものの、座席の増に応じて旅客もほぼ同規模で伸長。
- ブラジル経済の伸び悩みの影響で、日本への出稼ぎ需要が徐々に増加。

## 2015年下期展望

- 国内線 旺盛な需要に支えられ、引き続き堅調な伸びが続くと想定。
- 先日、TAM航空がブラジル国内線10%カット、従業員2%リストラすると発表したことに伴う、マイナス影響を懸念。
- 国際線 景気の停滞と最近の為替(ドル高レアル安)の影響で、ブラジルからの出国者数が減少もしくは停滞すると想定。

## 特記・周知事項

- エチオピア航空が、4月下旬から、週2便でサンパウロ＝アディスアベバ＝成田線に新規就航。
- 全日空が、6月12日から成田＝ヒューストン線に新規就航し、ヒューストン＝サンパウロ・リオデジヤネイロ線でコードシェア便を運航開始。
- AVIANCAブラジルが、7月22日から Star Alliance に正式加盟。
- アメリカン航空が、10月中旬頃、サンパウロ＝ロサンゼルス線にボーイング787を投入し、それに合わせ、グアリュアリーヨス空港(T3)のラウンジを新規オープン予定。

# 旅行業界

## 2015年上期回顧

- 国内線は前年同期比、発券枚数は12.8%増、売上額は1.5%増を記録
- 国際線は前年同期比、発券枚数は14.8%増、売上額は18.9%増を記録

## 2015年下期展望

- ドル高レアル安と景気後退の影響により海外旅行客の減少見込。
- 海外旅行を見合せ国内旅行に切り替えることにより、国内旅行の需要の伸びが多少なりとも期待される。

## オリンピック関連

- プレイベント(テスト大会)に各国からの視察団が来伯中。
- オリンピックが近づくにつれ、来伯グループの先行受注が増加傾向見込
- ホテルや車両会社等が便乗値上げをしてくると予想される、一方で  
昨年WCのときと同様に間際のキャンセルもあることが予想。



# ホテル業界

## 2015年上期回顧—サンパウロ市ホテル業界

部屋使用率 60.75%

平均宿泊料金 R\$315.00

※2015年6月度（前年同月対比）部屋使用率 8.6%のアップ  
平均宿泊料金18.7%のダウン

経済及び政治面の微妙な局面にもかかわらず、ドル高騰により国内観光及び外国人来伯の増加傾向。

## 2015年下期展望—サンパウロ市ホテル業界

- サンパウロ市（+2%）を除くサンパウロ首都圏内は  
2015年度は累積で2.7%の適度な部屋使用率上昇を記録する見込み（業界の調査に基づく）
- コストダウン対策及び現在の難局に対してのチャレンジが要求される。  
ドル高騰により国内観光のチャンスも見出せるが、観光シーズン外のパッケージ企画に関して大きな想像力及び革新、販売促進策、製品、サービス及びプロセス等の開発が必要。

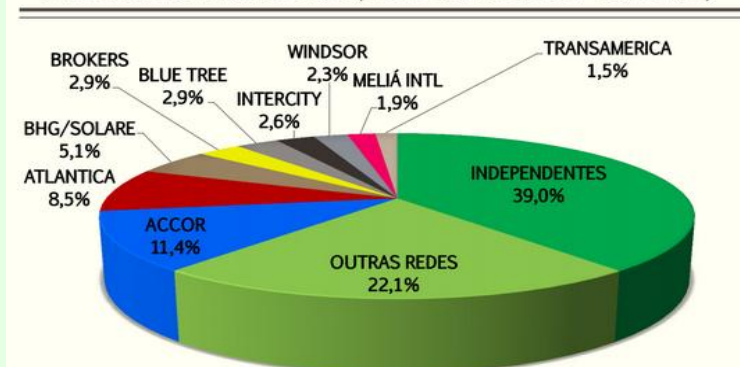
## サンパウロ市内 2014年/2015年1-7月対比

部屋使用率の変動 : -38.6%  
(参考 国内ホテル -3.6%)

平均宿泊料金変動率: -43.7%

(情報源: サンパウロ市観光及びイベント観測機関)

Hotelaria nacional (market-share vendas)



# 通信業界（携帯モバイル）

## 2015年上期回顧

- ▶ ブラジルの経済状況の悪化に伴い、スマートフォンの普及ペースが鈍化。端末市場においてはサムスン、LG、アップル等に加え、廉価版スマホを提供する中国Xiaomi社が6月にマーケット進出
- ▶ 加入者数 :2億8245万 (普及率 :138,2% :世界第5位)
- ▶ 2G (GSM等) :9.326万 (シェア :32,82%)
- ▶ 3G :1億6198万 (シェア :56,98%)、4G (LTE) :1.184万 (シェア :4,17%)
- ▶ データカード等 :1.712万 (シェア :6,03%)、プリペイド比率 (74.85%)

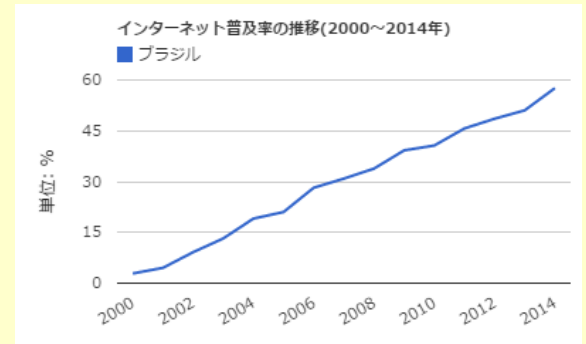
## 2015年下期展望

- ▶ 4G (LTE) の普及に伴い、さらにデータ通信サービスが増加、一方で音声サービスは継続的に低下する見込み
- ▶ 法人ユーザ (物流、医療、メーカ等) においてはマシーン-to-マシーンを含む Internet of Things (OT、すべての人・物がInternetで繋がるサービス) が  
\* ブラジルも含め、ラテンアメリカで普及していくことが予想される
- ▶ 16年オリンピックに向け、特に開催地であるリオでの通信品質については、各社基地局の増強を含めて改善が図られる見込み
- ▶ \* SNSのほかに、Waze (ナビゲーション) やEasyTaxi、Taxi99など生活に役立つフリーアプリケーションが更に増えてくると予想される

# 通信業界（テレコム・データセンター）

## 2015年上期回顧

- ブロードバンドのマーケットシェア：NET31.6%、Vivo29.2%、OI26.1%
- 6月末時点でブロードバンドユーザは2千4百万9千人を突破
- インターネット普及率は約57%（**世界70位**）
- Windows10のアップグレードなどアプリケーションの提供がクラウド型へシフト、大手ITサービス企業を中心に国内データセンター需要が急速に高まっている



\*

## 2015年下期展望と課題

- 通信業界再編が活発化、通信インフラ基盤の安定化、低廉化が期待され、今後、FTTH、FTTOが普及、利用が増加する見込み
- コモディティ化したICT要素（メール、サーバー等）はより柔軟でコスト効果の高いクラウド型（データセンター）へシフトが進むが、通信インフラ基盤の脆弱性がネック
- インターネットがビジネス基盤化する中、大都市中心部以外（郊外の工業団地等）で高速化/安定化/低価格化が求められている

\*技術者不足、人経費の高騰→IT専門家の確保の困難が慢性化

# IT業界（サービス、インフラ、ソフト）

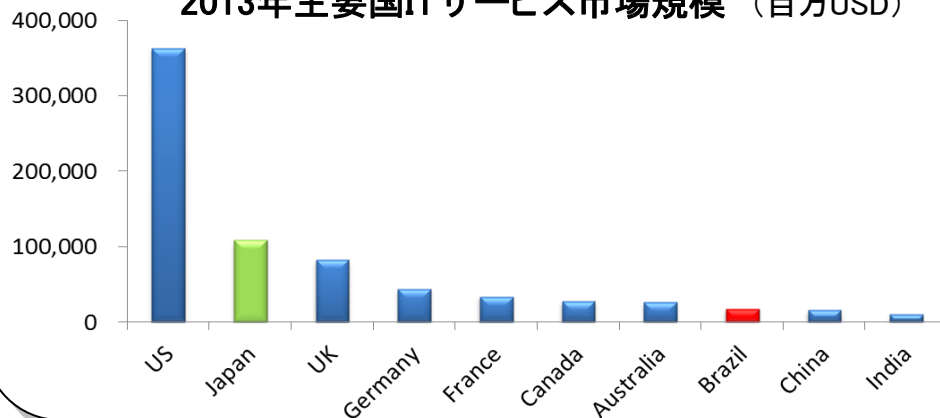
## 2015年上期回顧

- ・ 2015年度IT投資予想額はUS\$125billionからUS\$116billionに下方修正。
- ・ 顧客からのITコスト削減要求の対応に苦慮。新規日系企業進出に関わる案件は減少。
- ・ コスト削減を目的としたITの活用(BPO・ITO等のアウトソーシング)の需要が旺盛。
- ・ SPED(公共簿記システム)関連のシステム導入対応が引き続き増加。

## 2015年下期展望

- ・ 景気低迷や為替の影響等により、IT投資額がさらに削減。
- ・ クラウドサービスやデータセンタの需要の増加、クラウドサービスのコモディティ化によるITインフラの価格削減が期待される。またビッグデータ等のIT先進技術の浸透にも期待。
- ・ SPEDのeSocial対応が増加。
- ・ ITコストの全体最適化等の観点から、ITにおける保守・運用業務のコスト削減が課題
- ・ 優秀なIT人材の育成や確保、人件費の高騰への対応は大きな課題。

2013年主要国ITサービス市場規模（百万USD）



	2013年	シェア	対前年比
US	363,596	39.0%	3.6%
Japan	109,059	11.7%	-16.2%
UK	82,682	8.9%	1.2%
Germany	44,434	4.8%	2.6%
France	34,151	3.7%	1.6%
Canada	27,661	3.0%	-0.1%
Australia	26,407	2.8%	-4.8%
Brazil	17,819	1.9%	2.2%
China	16,165	1.7%	11.4%
India	10,351	1.1%	3.6%

## 必ず復活！ブラジル経済

### ～日系企業はどう立ち向かうか～

- 日系物流業者としてのアドバンテージの無い国内業界に参入し、日本品質で地場業者と戦っていく。
- コスト競争力を高める為の社内技術開発により合理化・機械化技術力を高める為の体制作りと実施。
- 日伯間の観光ビザ相互免除協定の締結推進により更なる来伯客の誘致を導く。
- ブラジル及び欧米系の航空会社との連携を強化し、ブラジル＝日本間の路線網の拡大と乗継ぎの利便性向上を促進する。
- 当地旅行会社との協業にて、ブラジル人の訪日旅行者数を増大する旅行商品を作成し、販売の強化を図る。
- 需要を待つのではなく、創造することが大事。

**ご清聴有難う御座いました。**



**運輸サービス部会一同**

# (資料) 航空旅客

## (参考) 利用率について

A → B 路線の距離 10 km

A → C 路線の距離 100 km

項目	A → B	A → C	計
旅客数 (人)	80	50	130
座席数 (席)	100	100	200
占有率 (%)	80.0	50.0	65.0
RPK (旅客キロ)	800	5,000	5,800
ASK (座席キロ)	1,000	10,000	11,000
利用率 (%)	80.0	50.0	52.7

- 単体の路線では、占有率と利用率は同じ。
- 但し、路線距離が異なる複数路線を合算して利用率を示す場合は、旅客数と座席数のそれぞれに距離を乗じて算出する。

# (資料) Eventos - イベント

## 2015- 1o semestre Eventos em São Paulo

### 2015年- 上半期 (サンパウロでのイベント)

Em eventos, segundo o SP Convention Bureau, houve um aumento de 11% de oportunidade de negócios gerados em relação a 2014 em São Paulo. São Paulo está entre os 35 de um total de mais de 400 cidades no mundo, que mais recebem eventos internacionais. Em 2003 a ocupação era de 98ª posição hoje São Paulo está na 34ª posição mundial.

イベントに関して、SPConvention Bureauの情報により、2014に対して11%のビジネスチャンスの増加が発生しました (サンパウロ)。

国際イベント開催に関して、現在、サンパウロ市は世界の400市以上の中でトップ35位です。2003年は98位でしたが、現在世界ランクで34位です。

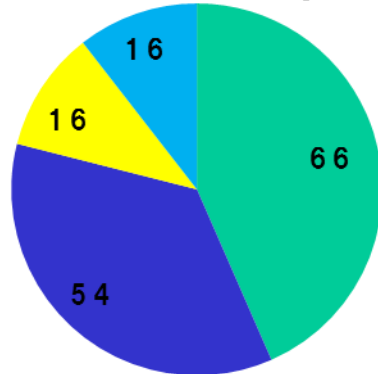
## 2015 - 2º semestre- Perspectivas de Eventos em São Paulo

### 2015年 - 下半期(サンパウロでのイベントの見通し)

Em se tratando de eventos em São Paulo, um ponto que merece atenção para o 2º semestre é a competitividade de outros destinos para a realização de eventos por conta de custos, políticas e a rotatividade do próprio evento.

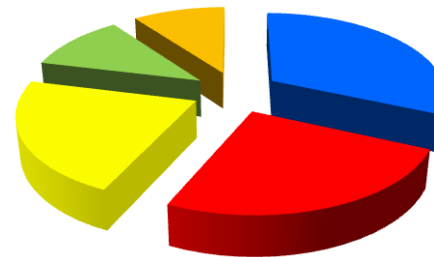
サンパウロでのイベントに関して、下半期のイベント受注に対しては他の都市の競争となります。

1º no Brasil  
ブラジルで一位



- SP
- RJ
- Brasilia
- Foz do Iguaçu

Brasil no mundo (10º Lugar)  
ブラジルと世界 (10位)



- 1- EUA
  - 2- Alemanha
  - 3- Espanha
  - 10- Brasil
  - 12- Canadá
- 1- 米国
  - 2- ドイツ
  - 3- スペイン
  - 10- ブラジル
  - 12- カナダ



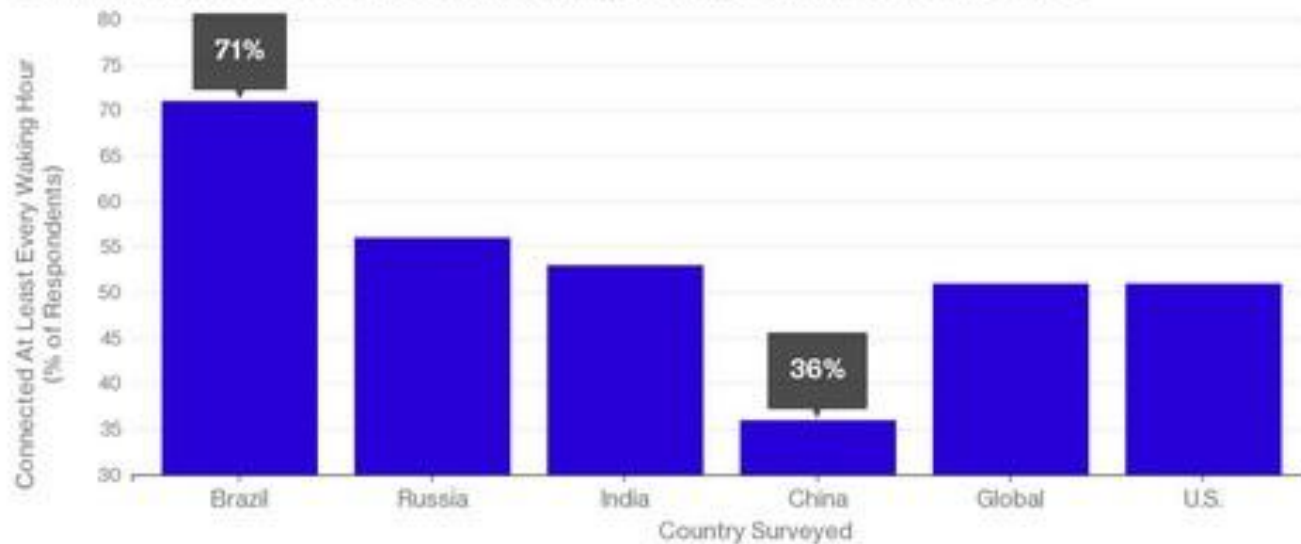
# (資料) ブラジルのインターネット接続

## % of Users Who Say They Connect to Internet at Least Once a Day

- インターネットに毎日つなげている人が一番多い国は世界ダントツでブラジル


### Most Connected

Brazilians connect to the Internet more than consumers in the rest of the BRICs



A.T. Kearney

Data is based on a study of 10,000 evenly distributed respondents across 10 countries, conducted in July 2014.

Bloomberg 

# (資料) ブラジルモバイル市場

- ブラジルにおける携帯電話の契約数は増加しており、普及率は約138%。所得増加に伴い、プリペイド比率は低下傾向。

	2013年	2014年	2015年
携帯電話契約数 [万]	27,110	28,073	28,245
普及率 [%]	134	138	138,2%
プリペイド比率 [%]	78.0	75.8	74.8

- ブラジル市場では、急速に2Gから3G/4Gへの移行が進んでいる。

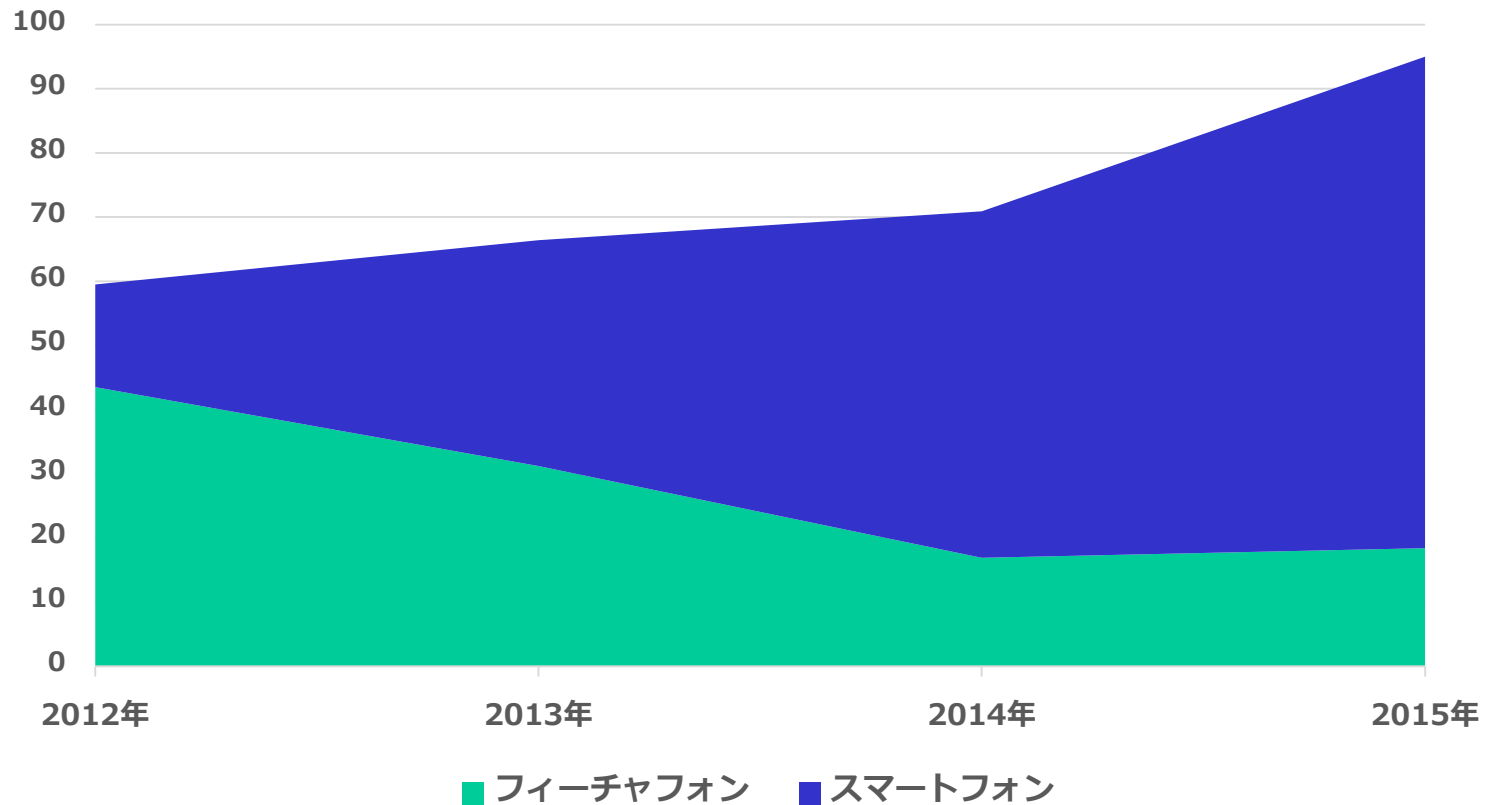
	2013年	2014年	2015年
2G	15,967	11,298	9,326
3G	9,476	14,466	16,198
4G	131	677	1,184
データカード	1,533	1,630	1,712

# (資料) ブラジル携帯端末

- スマートフォンの販売台数は急速に伸びており、2015年には販売数全体の90%を超える見込み。
- スマートフォンの販売台数の約35%が4G(LTE)使用

(単位：百万台)

【販売台数】



# (資料) 国別固定電話・携帯電話普及率推移

